

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・可能な限り実験や観察を行うことができた。

(2) 課題

- ・実験を考察する場面をさらに多く取り入れる必要がある。
- ・さらなる知識の定着を、小テストなどを用いながら図る必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎は平均とほぼ同値、活用は平均を上回っている。また、思考・判断・表現の正答率が高い。		
第2学年	基礎の得点率が低く、中でも生命分野の正答率が低い。また、記述問題の正答率が低い。	基礎・活用ともに平均よりもやや下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	活用に関しては、目標値を大きく上回っている。また、地球分野の正答率が高く、全体的に正答率がよい傾向にある。	目標値とほぼ同じ程度である。今年度は、応用よりも基礎の分野の問題正答率が良い傾向がある。(第2学年時)	目標値とほぼ同じ程度である。基礎よりも応用の分野の問題正答率が良い傾向がある。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が目標値を下回っている。	校内平均正答率が目標値とほぼ同じである。	意欲的に学習する態度が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が目標値を下回っている。	校内平均正答率が目標値を下回っている。	取り組む姿勢が、二分化させている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が目標値とほぼ同じである。	校内平均正答率が目標値を上回っている。	意欲的に学習する態度が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「物質・エネルギー」に関する問題では正答率が低い傾向が見られた。「生命・地球」に関する問題では目標値とほぼ同値であった。くり返し問題演習などを行うことにより定着を図る。技能は引き続き実験を中心に指導をする。	目標値とほぼ同値であった。実験を行う前に実験方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 検討や提案の方法については指導に時間をかけていく。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験へ意欲的に感じる。そのため、与えられた実験をこなす授業から、生徒が考えた方法を少しでも多く取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「エネルギー」「生命」に関する問題では正答率が低い。くり返し問題演習などを行うことにより定着を図る。技能は引き続き実験を中心に指導をする。	目標値とほぼ同値であった。実験を行う前に実験方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 検討や提案の方法については指導に時間をかけていく。	学年全体が理科への関心がやや低い、特に実験へ意欲的に感じる。そのため、与えられた実験をこなす授業から、生徒が考えた方法を少しでも多く取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「生命」「地球」に関する問題では高い正答率が見られたが、「粒子」に関する問題ではやや正答率が低い。くり返し問題演習などを行うことにより定着を図る。技能は引き続き実験を中心に指導をする。	実験を行う前に実験方法を検討・提案する授業を取り入れていきたい。 検討や提案の方法については指導に時間をかけていく。	学年全体が理科への関心が高く、特に実験へ意欲的に感じる。そのため、与えられた実験をこなす授業から、生徒が考えた方法を少しでも多く取り入れる授業を展開することで、生徒の主体性を養いたい。